

学歴が低いほど心臓血管病リスクは高く、高卒未満では2人に1人が発症

教育格差がその後の心臓血管病のリスクと関連するのであれば、各人が自分の学歴に応じて健康意識を高めるきっかけになるかもしれない。本研究では、学歴と心臓血管病の生涯リスクとの関連について検討した。

米国の4地域（メリーランド州ワシントン郡、ノースカロライナ州フォーサイス郡、ミシシッピ州ジャクソン、ミネソタ州ミネアポリス郊外）において、試験開始時に心臓血管病のない45～64歳の白人およびアフリカ系アメリカ人13,948例（女性56%、アフリカ系アメリカ人27%）を対象に、1987～2013年まで追跡調査を行った。その結果、学歴と中年期に発症した心臓血管病累積リスクは逆相関を示し、高校を卒業した人としなかった人で最も顕著な差がみられた。男性においては、学歴別の心臓血管病生涯リスクはそれぞれ小学校59.0%、高校中退52.5%、高卒50.9%、職業訓練学校47.2%、大学進学46.4%、大学院42.2%であった。女性でも同様の傾向がみられた。家計収入、収入の変化、職業、親の教育レベルの同じカテゴリー内でも、学歴と心臓血管病は逆相関を示した。

したがって、高校を卒業していない人では2人に1人が心臓血管病イベントを経験していたことが明らかとなった。また、他の重要な社会経済的特性に関係なく、学歴と心臓血管病の生涯リスクに逆相関の関係が認められた。

出典：Journal of American Medical Association. Internal Medicine.

Published online Jun 12, 2017; doi: 10.1001/jamainternmed.2017.1877.